



令和7年度 講師派遣プログラム

お問合せ先： 皇學館大学 学生支援部入試担当

電 話： 0596-22-6316

FAX： 0596-22-6378

E-mail: nyusi@kogakkan-u.ac.jp

皇學館大学

KOGAKKAN UNIVERSITY

目 次

■ はじめに	1
■ 出前授業・大学説明会等のお申し込み方法 . . .	2
■ 講師派遣までの流れ	2
■ 講師派遣プログラム講義一覧	3
■ 講義内容の紹介（文学部・教育学部・現代日本社会学部）	
● 文学部	
神道学科	7
国文学科	10
国史学科	14
コミュニケーション学科	18
● 教育学部	
教育学科	23
● 現代日本社会学部	
現代日本社会学部	33
■ 公開授業のご案内	38
■ 出前授業実施申込書	40
■ 入試説明会・学部学科説明会実施申込書 . . .	41

はじめに

この冊子は皇學館大学の「高大連携プログラム」の一環として、提供する出前授業・説明会を紹介するものです。

「高大連携プログラム」とは大学の学びに触れ、大学をより身近に感じてもらい、高等学校・中等教育学校に在籍する生徒の皆様が、大学における高度な教育・研究に触れる機会を持つことを目的の 1 つとしています。これらのプログラムにご参加いただくことで、皇學館大学を身近に感じていただければ幸いです。

■出前授業

皇學館大学では、高等学校などの要請にお応えして、講師の派遣を行っています。生涯学習や研修の一助として、ご指定の施設にうかがい、ご希望の授業をさせていただきます。関心あるテーマがございましたら、お気軽にご相談ください。
また、オンライン講義等の対応も可能です。

※諸行事、講師のスケジュール等により、ご希望に添えない場合があります。予めご了承ください。

■大学説明会・学部説明会・入試説明会

本学職員が、皇學館大学の概要、
学部・学科、入試制度等について説明します。

皇學館大学学生支援部入試担当

□出前授業・大学説明会等のお申込み方法

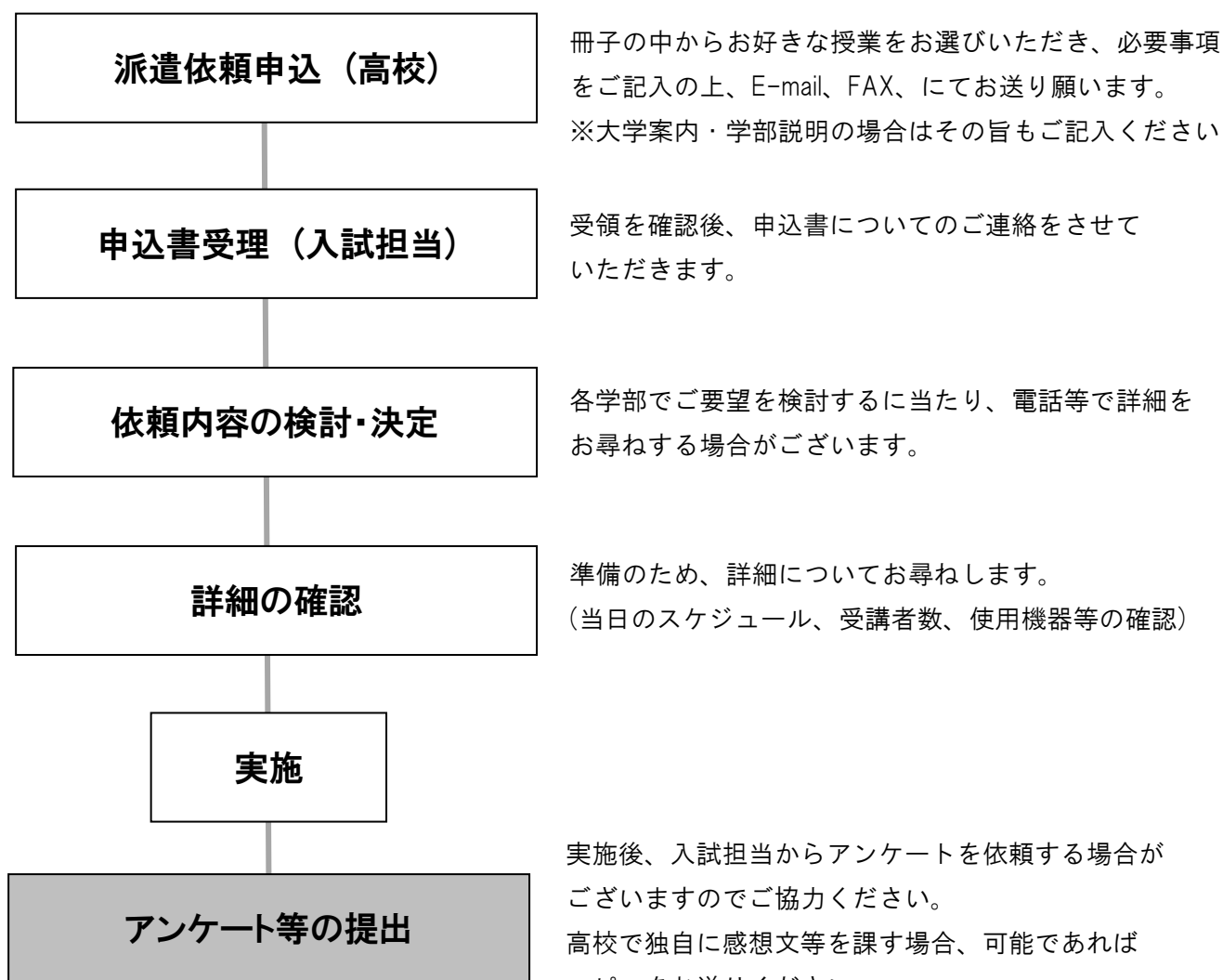
下記の手順に従って、開催予定日の1ヶ月前までに入試担当までご連絡ください。

【送付先】

E-mail: nyusi@kogakkan-u.ac.jp FAX: 0596-22-6378

注意事項	※講師派遣プログラムの中で、大学説明又は学部説明もご希望される場合は、その旨を申込書にご記入ください。 ※その他、ご要望等がありましたら、入試担当までご連絡ください。 ※教員指定の場合は、できる限り早めにお申込みいただくようお願いします。
------	---

□お申込みから講師派遣までの流れ



令和7年度 皇學館大学講師派遣プログラム講義一覧

神 道 学 科		文 学 部		
講義番号	専 門 分 野	氏 名	講 義 テ ー マ	掲載ページ
1	宗教学/宗教社会学	板井 正斉	雅楽の歴史と魅力を知ろう	7
2	宗教学	中山 郁	死んで、あらたに生まれかわる ―修験道修行入門―	7
3	神道史/神道思想史	松本 丘	明治維新の源流をさぐる	8
4	近代神道史	高野 裕基	神社の成立について考える	8
5	神道祭祀・神社祭式	田井 健治	かたちとところ その作法ってどんな意味？	9

国 文 学 科		文 学 部		
講義番号	専 門 分 野	氏 名	講 義 テ ー マ	掲載ページ
6	上代文学/国語学	大島 信生	①三重の万葉 ②「令和」と万葉集	10
7	書道	上小倉 一志	あなたも達人―筆画の作法―	10
8	中世文学	木村 尚志	歌合と歌論 ―歌の良し悪しの基準―	11
9	日本語学	齋藤 平	身近な方言の魅力	11
10	近世文学	田中 康二	国文学研究法入門	12
11	漢文学/ 中国宗教思想(道教)	松下 道信	沙悟浄はカップか？	12
12	図書館情報学/ 現代文学	岡野 裕行	本はどこから来てどこへ行くのか	13
13	近代文学	平石 岳	書き換える人、芥川龍之介	13

国 史 学 科			文 学 部	
講義番号	専 門 分 野	氏 名	講 義 テ ー マ	掲載ページ
14	日本古代史	遠藤 慶太	古代と北海道	14
15	日本中世史/ 古文書学	岡野 友彦	源頼朝と北条政子は夫婦別姓？	14
16	日本中世史	多田 實道	地域の歴史を調べる	15
17	日本近代史/ 地方行政史	谷口 裕信	“地方”の誕生	15
18	東洋史	堀内 淳一	東アジアの中の古代日本	16
19	日本思想史	松浦 光修	天才・本居宣長の勉強法	16
20	日本近世史	谷戸 佑紀	江戸時代の“伊勢”	17
21	日本近現代史/ 対外関係史	長谷川 怜	見て・聴いて感じる日本近現代史	17

コミュニケーション学科			文 学 部	
講義番号	専 門 分 野	氏 名	講 義 テ ー マ	掲載ページ
22	人工知能/異文化 コミュニケーション	張 磊	学びも遊びも、生成AIと一緒に	18
23	実験心理学	芳賀 康朗	カラダの外に浸み出すココロ：身振りや手振りの役割	18
24	外国語教育学	川村 一代	English will broaden your world. Let's learn English!	19
25	臨床心理学/ 音楽療法	栗野 理恵子	こころとからだを感じてみよう ～共感と傾聴のワーク～	19
26	臨床心理学	高沢 佳司	認知のクセ、かたよりをほぐすには	20
27	英語学	玉田 貴裕	日英対照言語学：日本語と英語の発想の違い	20
28	異文化 コミュニケーション	ディチェロ チェロ	Breakfast in Japan and the U.S.	21
29	社会心理学	中山 真	①大学で学ぶ心理学 ②ストレスとの付き合い方	21
30	人文地理学	栗林 梓	「地理×情報」で読み解く地域と人生	22

教 育 学 科			教 育 学 部	
講義番号	専 門 分 野	氏 名	講 義 テ ー マ	掲載ページ
31	特別支援教育学	大杉 成喜	アシスティブ・テクノロジー入門 —様々な「できる」をサポートする—	23
32	保健体育科教育学	加藤 純一	生成AIを用いた情報活用能力の育成	23
33	食育/調理学	駒田 聡子	食と健康	24
34	国語教育学/ 日本中世文学/ キャリア教育学	中條 敦仁	大切な人とことばで繋がるすばらしさ	24
35	理科教育学/ 生物学/ 昆虫生理学	中松 豊	保育園、幼稚園、小学校における 昆虫を使った「生き物教室」 アワヨトウの血球を使った自然免疫の観察	25
36	発達心理学	吉田 直樹	児童虐待とマルトリートメント	25
37	教育心理学/ 家族心理学	渡邊 賢二	コミュニケーション力をつけよう	26
38	道德教育	渡邊 毅	アメリカの道德教育と生徒指導	26
39	教育行政学/ 教育経営学	市田 敏之	部活動の現在	27
40	教育史学/ 教育課程論	井上 兼一	①教育という営みを考える ②教育学部で学ぶこと	27
41	算数/ 数学教育	上野 祐一	①教師の魅力ややりがい ②数学の面白さ・奥深さ ③高校数学で分かる大学数学入門	28
42	小児保健/ 保育	小川 真由子	①子どもの健康と安全を学ぼう ②命の大切さを知る性（生）教育	28
43	健康/ スポーツ科学	片山 靖富	①非感染性疾患（生活習慣病）の予防と改善 —食事・運動と健康— ②身体活動，運動，スポーツの違いを説明できますか？	29
44	柔道（武道）	佐藤 武尊	一流柔道選手および学生柔道選手を対象とした研究の紹介 （主に競技力向上に対するアプローチ）	29
45	理科教育学	澤 友美	理科の観察・実験	30
46	音楽教育	高橋 摩衣子	子どもと楽しむ音楽あそび	30
47	教育哲学/成人教育史	野々垣 明子	教育・学校の歴史 成人の学習	31
48	社会科教育学	萩原 浩司	脱炭素社会・カーボンニュートラルへの取り組み	31
49	障害児教育学/ 学校心理学	山本 智子	大学～教育学部での学び	32
50	児童福祉/保育	吉田 明弘	①明日はわが身の社会福祉—社会福祉って何だろう？ ②ときめき!!保育士体験—新聞紙を使った保育の展開	32

現代日本社会学科		現代日本社会学部		
講義番号	専 門 分 野	氏 名	講 義 テ ー マ	掲載ページ
51	法制度/高齢社会/ 権利擁護	鵜沼 憲晴	わが国の社会問題と社会福祉	33
52	地域再生論	岸川 政之	未来の大人たちに私たちができること（一般） 君たちの可能性は無限大（中学生～大学生）	33
53	現代社会/現代家族/ 社会情報	関根 薫	児童虐待の現状と課題	34
54	地域社会/社会調査法	筒井 琢磨	映画の中の社会情報	34
55	高齢者福祉/ 介護福祉	中野 一茂	社会福祉について学んでみよう	35
56	社会統計/地域教育/ 社会調査	藤井 恭子	社会調査のウソ、ホント	35
57	民族音楽学	瓜田 理子	異文化のレンズを通して見る日本-ポーランドとの 文化対話	36
58	精神保健福祉/ 精神保健福祉援助技術	榎本 悠孝	これであなたも聞き上手！ 社会福祉の相談援助職が用いる傾聴の技術	36
59	地域福祉/ コミュニティワーク/ ボランティアマネジメント	大井 智香子	生成AIで創出するみんなのWell-being	37
60	国際政治/米中関係 日本の外交安全保障/ 米国のアジア政策	村上 政俊	世界の中の日本 —大国としての覚悟と未来への責任—	37

NO. 1	雅楽の歴史と魅力を知ろう	板井 正斉
内容	神社を参拝したときに聞こえてくる独特の調べ。 神社で願い事をする際、神様に楽しんでもらうための演奏を神楽・雅楽と言います。 神楽・雅楽は、日本の古典音楽の一つです。 神楽・雅楽の歴史と魅力から、神道や神社、日本文化のことを考えてみましょう。	
プロフィール	昭和48年大分県生まれ。 皇學館大学大学院文学研究科修士課程神道学専攻修了。 皇學館大学社会福祉学部、現代日本社会学部、教育開発センターを経て現職。 専門は宗教学・宗教社会学。 著書に『ささえあいの神道文化』（単著）、『ケアとしての宗教』（共編著）がある。 皇學館大学雅楽部部長。	

NO. 2	死んで、あらたに生まれかわる	中山 郁
内容	日本の山々には沢山のカミやホトケが祀られています。そうした聖なる存在と、修行を通じて一体化したうえで、人々を救済しようとする宗教、それが「修験道」です。現在も奈良県の大峰山脈や山形県の羽黒山など各地の霊山で多様な修行が展開していますが、そうした修行は、いかに行われ、どのような人々によって支えられているのか、また、いかなる構造を持っているのか、以上についてご紹介いたします。	
プロフィール	昭和42年東京都生まれ。 國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得満期退学博士(宗教学) 國學院大學教育開発推進機構教授を経て平成30年より皇學館大学文学部神道学科教授 著書に『修験と神道のあいだ—木曾御嶽信仰の近世・近代』（単著）、『木曾のおんたけさん—その歴史と信仰』（共著）がある	

NO. 3	明治維新の源流をさぐる	松本 丘
内容	日本が近代国家として歩み始めた明治維新は、800年もの長い間続いた武家の時代を変革した、天皇を中心とする体制の復活でもありました。これに関わった人々を動かしていた江戸時代の学問・思想、特に神道思想・尊王思想を通して、明治維新の思想的な源流を考えます。	
プロフィール	昭和43年東京都生まれ。 國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期満期退学。 國學院大學日本文化研究所兼任講師、神社本庁教学研究所録事等を経て現職。 専門は近世神道史・神道思想史。 著書に『尚仁親王と栗山潜鋒』『垂加神道の人々と日本書紀』がある。	

NO. 4	神社の成立について考える	高野 裕基
内容	神道は日本人の生活様式や考え方の奥深くに存在し続けてきた日本古来の固有の民族信仰です。その信仰が最もよく「形」として現れたものが神社であり、全国津々浦々に鎮座しています。私たち日本人にとって、神社はあまりにも身近な存在である一方、神社の社殿や施設が持つ意味や機能、神社の祭りにおける祈りの内容などについて、詳しく説明できる人は少ないのではないのでしょうか。 本講義では、神社や祭りの概要について解説するとともに、その成立の経緯や背景を考えることで、私たち日本人と神社・神道との関係性について広く学びます。	
プロフィール	昭和60年神奈川県小田原市生まれ。 國學院大學大学院文学研究科神道学・宗教学専攻博士課程後期修了、博士（神道学）。 國學院大學研究開発推進機構助教（特別専任）を経て、令和3年より現職。 専門は近現代神道史、神道思想史、宗教行政史。	

NO. 5	かたちとところ その作法ってどんな意味？	田井 健治
内容	神社でおまいりする時は「2礼2拍手1礼」という作法があるのはご存じのことと思います。しかし出雲大社では拍手を4回打ちますし、伊勢の神宮で神職さんは8度お辞儀をし、8度手を打ちます。場所によって作法が違うのは何故なのか？一般にいわれる作法はいつから行われているのか？またその形にどんな思いが込められているのか？そんな神社の作法のかたちとところについて皆さんと考えていきたいと思います。	
プロフィール	昭和61年岡山県生まれ。 皇學館大学大学院文学研究科博士前期課程神道学専攻修了。 高野山専修学院にて僧侶の育成に従事、皇學館大学文学部助手等を経て、令和6年より現職、 津市結城神社にて現役の神職も兼務。 専門は神道祭祀・神社祭式。	

NO. 6	①三重の万葉 ②「令和」と万葉集	大島 信生
内容	①万葉集は現存する我が国最古の歌集で、4500首余りの歌が収められています。歌われた地域は、大和を中心に東北から九州にかけての広い範囲に及びます。その中には、三重県と関わる歌も少なからずあります。その中から柿本人麻呂や大伴家持などの作品を取り上げてお話しします。 ②新元号「令和」は万葉集巻5「梅花の歌三十二首」の序文に由来しています。その序文と梅花の歌三十二首について解説し、元号「令和」について考えます。	
プロフィール	昭和32年福岡県生まれ。 皇學館大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。 著書『万葉集の表記と訓詁』（おうふう）。博士（文学）。 専門は上代国語国文学。	

NO. 7	あなたも達人 ―筆画の作法―	上小倉 一志
内容	文字を手書きすることが少なくなってしまった当世であればこそ、人が書いた文字の温かみや、手書き文字が持っているパワーを知ってもらい、さらに自ら文字を自由に美しく書くことが出来る喜びを感じてもらいたい。 そのための「美しい字形のワンポイントレッスン」や、漢字の成り立ち・筆順についての「漢字の不思議」などをお話したいと思っています。	
プロフィール	昭和36年北海道生まれ。 専門分野：書道 樽本樹邨に師事 日展会友・読売書法会理事・謙慎書道会常任理事・中日書道会理事	

NO. 8	歌合と歌論 ―歌の良し悪しの基準―	木村 尚志
内容	歌合は宮廷文学としての和歌が育まれてきた母胎となる共同的な場です。それはもともと勝負を決する場ではなく和歌を通したコミュニケーションの場でした。そこに勝負を決する場としての性格が生まれたのは、12世紀の院政期に歌道家が誕生してからのことです。この講義では、歌合の基礎知識を得るとともに、院政期における変化が「歌論」を発展させ、その中で「歌論」の原点としての『古今集』仮名序の神髄に目覚めていく様子を素描したいと思います。	
プロフィール	昭和54年生まれ。福岡県福岡市出身。 東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野博士課程修了。 博士（文学）。 和洋女子大学人文学部日本文学文化学科准教授を経て、現在皇學館大学文学部国文学科教授。 主な著書に、『和歌文学大系38 続古今和歌集』（共著、明治書院、2019年）、『中世和歌の始まり―京と鎌倉をつなぐ文化交流の軌跡』（単著、花鳥社、2021年）がある。	

NO. 9	身近な方言の魅力	齋藤 平
内容	普段、日常の暮らしではそれほど意識をしていなくても、私たちは生まれてから習得したことばの中に地域の要素を持っています。これが方言です。 それでは、それがいったいどのような役割を果たし、なぜ、地域によることばの違いが生じているのでしょうか。その移り変わりや分布の状況をたどりながら身近な方言の魅力についてお話します。	
プロフィール	昭和39年三重県伊勢市生まれ。 平成4年皇學館大学大学院博士後期課程中退。博士（文学）。 皇學館大学助手、准教授などを経て文学部教授・学長。 専門は日本語学・社会言語学。	

NO. 10	国文学研究法入門	田中 康二
内容	国文学研究は、古くは古代中世の「歌学」（和歌を研究する学問）にルーツを持ち、近世の「国学」を始祖とする学問で、日本にある学問の中で、もっとも伝統のある学問の一つです。それは一千年におよぶ先達によって築かれてきた、深く豊かな奥行きがありますが、これを語るのは一筋縄ではいきません。 現代歌人の俵万智（昭和37年～）の出世作に「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日」というのがあります。この現代短歌を素材にして、文学研究の手法を用いて文学作品にアプローチする手ほどきをします。	
プロフィール	昭和40年大阪市生まれ。 神戸大学文学部卒、同大学院文化科学研究科博士後期課程修了。 神戸大学大学院人文学研究科教授を経て、皇學館大学文学部教授。博士（文学）。専門は日本近世文学、とりわけ本居宣長を中心とした国学・国学史。	

NO. 11	沙悟浄はカッパか？	松下 道信
内容	中島敦に『悟浄出世』と『悟浄歎異』という作品があります。これは、中国の小説『西遊記』の登場人物、沙悟浄を主人公とした作品です。この中で、沙悟浄は深い水の底にすまうカッパのような姿として描かれています。『西遊記』は、三蔵法師が中国からインドへとはるばる仏教のお経を取りに行くお話で、唐の時代の玄奘三蔵という実在の人物をモデルとしています。彼は中国から陸路、インドに向かいました。途中悩まされたのは、灼熱の砂漠ではあっても、湖や大河ではありませんでした。では、沙悟浄はどうしてカッパの姿なのでしょう。また、孫悟空や猪八戒などはどうして誕生したのでしょうか。こうした事例について紹介しつつ、漢文の世界を幅広くお話できればと思います。	
プロフィール	昭和45年生まれ。 専門分野 漢文学・中国宗教思想史、特に道教 担当科目 漢文学概論、漢文学講読	

NO.12	本はどこから来てどこへ行くのか	岡野 裕行
内容	私たちはいつどこで本と出会っているのでしょうか？ まちの本屋、古本屋、公共図書館、学校図書館、カフェ、親・兄弟姉妹・祖父母の本棚、友だちの本棚など、さまざまな空間で本と出会います。本はさまざまな流通ルートを経て私たちの手元に届き、そして私たちの手から離れていきます。①本という情報メディアの特徴、②読者と読書の歴史、という二つの観点から、私たちの読書環境について考えてみたいと思います。	
プロフィール	昭和52年茨城県生まれ。 筑波大学大学院図書館情報メディア研究科図書館情報メディア専攻博士後期課程修了。博士(学術)。専門分野は図書館情報学と日本近現代文学。主な研究テーマは文学館、文学アーカイブ、文学散歩など。これまでにビブリオバトル普及委員会代表理事（平成27年～令和3年）、伊勢河崎一箱古本市実行委員会（平成27年～）三重県立図書館協議会委員（平成29年～）、伊勢市立図書館協議会委員長（平成29年～）、Library of the Year 選考委員長（令和3年～）などを務める。	

NO.13	書き換える人、芥川龍之介	平石 岳
内容	芥川龍之介は、自分の作品を何度も何度も書き換える人でした。 近代の文学作品は、現代の雑誌連載マンガと同様に、雑誌にまず掲載→まとめて単行本を出版、という流れが一般的でした。その流れのなかで芥川は、一度書きあげて雑誌に発表した自作を、書き換え、単行本に収録させました。そのような出版形態と作家の創作意識の問題を「羅生門」を例に考えます。 みなさんが教科書で読んだ「羅生門」は、どのバージョンの「羅生門」でしょうか？	
プロフィール	福岡県生まれ。博士（国文学）。 専門は日本近代文学、特に徳富蘆花の文学。 メディア（媒体）と文学の関係性に興味を持っている。	

NO. 14	古代史と北海道	遠藤 慶太
内容	蝦夷富士ともよばれる北海道の羊蹄山は、『日本書紀』にちなんで命名されたことをご存じでしょうか？。齊明天皇五年（659）の記事に、古代の将軍・阿倍比羅夫が北へ向かい、「後方羊蹄」に拠点をかまえたとの記事があります。羊蹄山はこの記事にちなんで幕末に命名されました。 それでは、飛鳥時代の人びとは、ほんとうに北海道に渡ったのでしょうか？。この講義では、ダイナミックな動きをみせた軍事氏族を通じて、緊迫する7世紀の東アジアの情勢や交流についてお話ししたいと思います。	
プロフィール	昭和49年兵庫県生まれ。 皇學館大学 文学部国史学科卒業 大阪市立大学 文学研究科博士後期課程修了、博士（文学） 専門は日本古代史 木簡学会や日本古文書学会の編集委員をしています。	

NO. 15	源頼朝と北条政子は夫婦別姓？	岡野 友彦
内容	歴史上の人物の名前を覚えるとき、平安時代より前の人名は、「そがのうまこ」「ふじわらのみちなが」「みなもとのよりとも」などと、「の」を付けて読んでいたのに対し、鎌倉時代より後の人名になると、「ほうじょうまさこ」「あしかがたかうじ」「とくがわいえやす」などと、「の」を付けなくなることに気付いた人はいませんか。 実は、この「の」を付けて読む人名、つまり源頼朝の「源」などを「姓」といい、「の」を付けない人名、つまり北条政子の「北条」などを「苗字」といって、この二つは全く別次元のものなのです。	
プロフィール	昭和36年神奈川県鎌倉市生まれ。 國學院大學大学院文学研究科日本史学専攻博士課程後期修了。 東京都江戸東京博物館学芸員を経て現職。 博士（歴史学）。専門は日本中世史。 著書に『家康はなぜ江戸を選んだか』（教育出版）『源氏と日本国王』（講談社現代新書）、『北畠親房』（ミネルヴァ日本評伝選）、『院政とは何だったか』（PHP新書）、『戦国貴族の生き残り戦略』（吉川弘文館）などがある。	

NO.16	地域の歴史を調べる	多田 實道
内容	自分が住んでいる地域には、一体どんな歴史が刻まれているのか。誰もが一度は、そんな思いを抱いたことがあるのではないのでしょうか。それでは、こうした地域の歴史を知るには、果たしてどうしたらよいのか。その調査の方法等について、お話してみたいと思います。	
プロフィール	昭和45年岐阜県生まれ。 皇學館大学大学院博士後期課程満期退学。 平成12年4月三重県立高等学校教諭。16年3月退職。 平成18年3月愛知学院大学大学院博士課程前期終了。同年4月より現職。	

NO.17	“地方”の誕生	谷口 裕信
内容	“地方”という言葉は、近代以前は「じ（ぢ）かた」という読みで使われることが多かったのですが、明治時代以降は一般的に、「ちほう」と読まれるようになっていきます。それには明治新政府が明治維新後におこなった、制度設計が関係しているのです。それではその制度設計とは、一体どのようなものだったのでしょうか。そしてそれによってどのような地方（ちほう）が生まれたのでしょうか。 この講義では、近代の地方制度を生んだ「近代日本」という時代的な背景を、皆さんと一緒に探っていければと思います。とりあげるトピックは、「県の名前ってどうやって決まったのだろうか?」、「日本の“裏”と“表”」、「市町村合併今昔物語」など。	
プロフィール	昭和50年島根県生まれ。 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了、博士（文学）。 専門は近代日本の政治史・行政史（特に地方制度史）。 伊勢市史の編さんに携わりました。	

NO.18	東アジアの中の古代日本	堀内 淳一
内容	3-6世紀の日本については、資料が限られているため、その実態は未だ明らかになっていない部分が多くあります。その時代の「倭」「日本」は、どのようなものだったのでしょうか。「倭」と言われていた国が、いつから「日本」になったのでしょうか。簡単な漢文のレッスンを交えつつ、漢から唐にかけての東アジアにおける日本の立ち位置についてお話ししたいと思います。	
プロフィール	昭和52年東京生まれ。 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了、博士（文学）。 専門は中国・魏晉南北朝時代における東アジア外交史、貴族社会史。 平成26年度より現職。	

NO.19	天才・本居宣長の勉強法	松浦 光修
内容	日本の歴史上、天才と呼ばれる学者はいろいろいますが、その一人が、三重県・松阪出身の本居宣長であることは、まちがいありません。宣長が寛政10(1798)年、69歳の時に著した『うひ山ぶみ』という本には、その天才・本居宣長の“勉強法”が、くわしく書かれています。 いったい、宣長は、どういう心がけで“勉強”していたのでしょうか？ 『うひ山ぶみ』の中から、200年以上をたっても、少しも古びていない、その“天才の勉強法”を探りたいと思います。	
プロフィール	昭和34年熊本市生まれ。 皇學館大学大学院博士後期課程に学ぶ。専門は江戸時代から明治にかけての日本人の“心の歴史”。そのかたわら、文学、歴史、宗教、教育、社会など、いろいろな問題について評論や随筆などを数多く執筆している。現在、皇學館大学文学部教授。博士（神道学）。著書に『竹内式部』（皇學館大学出版部）、『大国隆正の研究』（神道文化会）、『やまと心のシンフォニー』（国書刊行会）、『夜の神々』（慧文社）、『〈新訳〉南洲翁遺訓』（PHP研究所）、『日本の心に目覚める五つの話』（明成社）他。	

NO. 20	江戸時代の“伊勢”	谷戸 佑紀
内容	伊勢神宮のお膝元にひろがる伊勢の地は、古くから特色のある地域でした。特に江戸時代においては、庶民の間でお伊勢参りが一般化し、全国から大勢の人が来訪する場所になっていました。当時の人々は、ここで何を見て、どのような体験をしたのでしょうか。 本講座では、この町の中心的存在であった「御師（おんし）」と呼ばれる宗教者に注目して、古文書や絵画を用いながら、当時の様子をお話ししたいと思います。	
プロフィール	昭和61年三重県生まれ。 皇學館大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士（文学）。専門は日本近世史。	

NO. 21	見て・聴いて感じる日本近現代史	長谷川 怜
内容	歴史学の研究は、一次史料を読み、分析することによって行われます。近現代史の史料としては、政治家の書いた書簡や日記、官公庁の公文書などがあり、当時の新聞や雑誌などメディアも重要です。また、文字で書かれたものだけでなく、写真や絵葉書といった図画像や、録音された音源も近現代の史料です。こうした“感じる”史料を用いた近現代史の講義を行います。戦前期の写真や絵葉書、諷刺画の読み解き方を様々な資料を用いて解説する「目で見る日本近現代史」、または蓄音機を使って戦前のSPレコードに録音された歌や政治家の演説などを再生しながら歴史的背景を講義する「聴く日本近現代史」のいずれかをお選び下さい。*蓄音機とレコードは持参	
プロフィール	昭和61年名古屋市生まれ。 学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程修了。 博士（史学） 東京都公文書館専門員、千代田区立日比谷図書文化館文化財事務室学芸員を経て平成31年より現職。専門は、日本の満洲経営、日中関係史、図画像資料研究など。 共編著に『日本帝国の表象』（えにし書房）、『水野梅暁写真集—仏教を通じた日中提携の模索』（社会評論社）、『貴族院・研究会写真集』（芙蓉書房出版）など。	

NO. 22	学びも遊びも、生成AIと一緒に	張 磊 チョウ ライ
内容	人工知能（AI）の最前線に触れながら、未来の可能性と一緒に探ります。 AIは勉強を効率化し、趣味や創作活動にも新たな視点をもたらします。 この授業では、生成AIがどのように文章や絵を作り出し、さらにはアイデアを形にする手助けをするかを実際に体験。ゲーム感覚で楽しみながら、AIの仕組みや活用法を学べます。未来の社会で活躍する力を身につける第一歩を、この講義で踏み出しましょう！	
プロフィール	昭和39年中国生まれ。 名古屋工業大学大学院卒業 工学博士 中国社会科学院日本研究所 特別研究員 皇學館大学文学部コミュニケーション学科 教授	

NO. 23	カラダの外に浸み出すココロ： 身振りや手振りの役割	芳賀 康朗
内容	だれかとコミュニケーションをとるときや、ひとりで考えごとをするときに、わたしたちは「コトバ」だけでなく、「ジェスチャー（身ぶりや手ぶり）」を頻繁に使います。コトバは意識的に発するのに対して、ジェスチャーや表情は無意識のうちに身体で表現されます。この講義では、コミュニケーションや情報処理といった心のはたらきをサポートするジェスチャーの役割について、簡単な実験も行いながら考えていきます。	
プロフィール	名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程修了（博士(心理学)）。日本学術振興会特別研究員(PD)、人間環境大学人間環境学部教授を経て平成26年より現職。専門は実験心理学、学習心理学。ジェスチャーが情報処理過程に及ぼす促進的効果について研究している。	

NO.24	English will broaden your world. Let's learn English!	川村 一代
内容	英語を勉強しているときに、「なぜ英語を勉強しなければならないのだろう」と思ったことのある人は少なくないのではないのでしょうか。なぜ英語を学ぶのかという根本的な問いに一度向き合ってみると、今までとは違った気持ちで英語学習に取り組めるようになるかもしれません。 本講義では、英語の世界的な位置づけや英語学習が個人に及ぼす影響などについて学び、英語を学ぶ意義を意識化させます。英語はいろいろな意味で世界を広げてくれるということを理解し、英語への学習意欲が向上することを期待します。	
プロフィール	三重県生まれ。 米国ミシガン州立大学人文学部英語学科修士課程修了（M.A. in TESOL）。 米国フィリップス大学日本校、関西外国語大学短期大学部を経て現職。 専門は外国語教育学。 現在、英語のスピーキングの評価について研究しています。	

NO.25	こころとからだを感じてみよう ～共感と傾聴のワーク～	栗野 理恵子
内容	こころと身体の感覚は、自分自身を知るためにも、また相手を理解するためにもとても大切なものです。この講義では、「フォーカシング」という自己発見や自己探索に役立つ方法を用いて、ことばを使わない傾聴ワークを行い、共感すること、傾聴することについて学びます。 自己理解や他者理解、他者とのコミュニケーションにおいても役立つフォーカシングのスキルを体験しながら学びましょう。	
プロフィール	三重県生まれ 名古屋大学大学院環境学研究科社会環境学専攻心理学講座博士後期課程単位等認定（満了）／愛知淑徳大学大学院心理医療科学研究科心理学領域 心理医療科学専攻心理学コース研究生／ 博士（心理学）、公認心理師、臨床心理士、日本音楽療法学会認定音楽療法士 現在、こころとからだの関連についての心理・生理的反応、受容的音楽療法のひとつの方法としてのフォーカシング指向音楽聴取法の実施がもたらす心理・生理的反応について研究しています。	

NO. 26	認知のクセ、かたよりをほぐすには	高沢 佳司
内容	一般に、我々には何らかの考え方のクセ、かたよりがあると言われています。これが強くなりすぎると、対人関係上の摩擦が生じるきっかけとなることもあります。そこで、クセやかたよりを修正しほぐしていくことや、上手に付き合う方法を身につけることは有用であると考えられます。認知行動療法の知見から、簡単に組み立てるワークを中心に、一緒に練習してみましょう。 また、サブテーマとしてマインドフルネス・ストレス低減法、スポーツにおけるイッブス対処、犯罪心理学と防犯も取り扱っております。	
プロフィール	昭和55年青森県生まれ。 趣味は大河ドラマ鑑賞。好きな日本史のジャンルは戦国史。 法政大学大学院人間社会研究科人間福祉専攻博士後期課程修了。 博士（学術）、公認心理師、臨床心理士。愛知県や名古屋市の児相で心理判定業務経験。 専門領域：臨床心理学。 キーワード：認知行動療法、感情制御、自己制御。	

NO. 27	日英対照言語学：日本語と英語の発想の違い	玉田 貴裕
内容	英語を日本語に翻訳していると、ついつい英語に引きずられて不自然な日本語訳になってしまうことがあります。この時、その日本語訳が不自然だと分かるのは何故でしょうか。英語には英語、日本語には日本語特有の好まれる言い回しがありますが、その背後にはそれぞれの母語話者が言葉を習得する過程で慣習的に身につけた独特の感覚・発想があります。この授業では、英語と日本語にはどのような発想の違いがあり、それがどのように言い回しの好みに反映されているのかを、皆さんと一緒に考えていきます。	
プロフィール	昭和61年岐阜県生まれ。 名古屋大学大学院文学研究科博士課程後期課程満期退学 愛知淑徳大学講師を経て、平成31年より現職 専門は英語学	

NO.28	Breakfast in Japan and the U.S.	ディチェロ チェロ
内容	典型的なアメリカの朝食と飲み物を紹介します。その後、一日の始めに食べるものを比較し、その違いがどのように生まれたかを考える英語のスピーキング・タスクをしましょう。	
プロフィール	昭和57生まれ University of Hawaii at Manoa 修士 専門：Second Language Studies [第二言語習得研究] 皇學館大学文学部コミュニケーション学科 准教授	

NO.29	①大学で学ぶ心理学 ②ストレスとの付き合い方	中山 真
内容	①“心理学”は、一般的には心理テストやカウンセリング、読心術などのイメージが持たれがちですが、学問としての心理学はそれとは異なります。大学で学ぶ心理学の特徴や、授業の形式、取得できる資格や卒業後の進路、入試対策や高校生のうちにできることなどをわかりやすくお伝えします。 ②ストレスは深刻な事態にもつながりかねないやっかいものですが、ゼロにすることはできません。ストレスとの上手な向き合い方を身に付けることが大切です。ストレスについて楽しく理解を深めたいと思います。	
プロフィール	2012年、名古屋大学大学院教育発達科学研究科単位取得満期退学。鈴鹿短期大学生生活コミュニケーション学科助教、鈴鹿大学こども教育学部こども教育学科准教授などを経て、2019年、皇學館大学文学部コミュニケーション学科助教、2021年、同准教授。専門は社会心理学、臨床心理学。ストレス・対人関係。公認心理師・臨床心理士（公立小中学校スクールカウンセラー、児童相談所一時保護所心理職員を経験）。	

NO. 30	「地理×情報」で読み解く地域と人生	栗林 梓
内容	令和4年度から「地理総合」と「情報Ⅰ」が必修化されました。これは、現代社会において、データを適切に分析、解釈する能力や地理的なものの見方がますます重要になっていることの証です。 私たちは、なにげない日々の生活や旅行、そして進学、就職、結婚などのライフイベントで特定の地域と交差しながら生きています。私たちは地域から影響を受け、地域に影響を与える主体です。「地理×情報」で皆さんの、そして地域に生きる人々の人生の軌跡を一緒に読み解いていきましょう。	
プロフィール	長野県生まれ。 関西大学文学部、名古屋大学大学院環境学研究科を経て、東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。 専門：人文地理学 キーワード：人口移動、都市、教育機会、地域的不平等、生活／人生／ライフ、地域統計／地理情報システム（GIS） 大学では、データサイエンス、情報科学、地理学に関する授業を担当しています。	

NO. 31	アシスティブ・テクノロジー入門 —様々な「できる」をサポートする—	大杉 成喜
内容	令和3年5月改正の「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」では、障害のある人の学習や社会参加を支援するため「基礎的環境整備」や「合理的配慮」を講じることが義務づけられました。学校や園において、様々な困難を軽減・解消するため、どのように障害を理解し支援に取り組みれば良いかについて、ローテクからハイテクまで様々な方法を紹介します。また、視線入力装置を用いた学習支援やコミュニケーション、さらには任天堂SWITCH等コンシューマゲームやドローンの操作等についても紹介します。	
プロフィール	「特別支援教育」と「教育工学」を専門とし、大学では特別支援教育と小学校のプログラミング教育にかかる授業を担当しています。小学校や特別支援学校の教員の経験をもとに、特別な教育ニーズのある子どもへの支援についての研究を行っています。近年は小学校と連携したプログラミング教育（Viscuitやmicro:bit）の授業実践や、特別支援学校等と連携した視線入力デバイス（装置）を用いた実践研究を行っています。視線入力デバイスは視線の動きをマウスカーソル等の動きに変換し、コンピュータを操作することができます。これを活用すると文書作成やコミュニケーションができるだけでなく、任天堂SWITCHやPlayStation等のコンシューマゲームを操作したり、ロボットやドローンを操作したりすることができます。	

NO. 32	生成AIを用いた情報活用能力の育成	加藤 純一
内容	文部科学省初等中等教育局「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」（令和5年7月）に基づき、教育活動や教務で生成AIの活用を促す試みを講義の中で展開。現在は、学習指導案の作成を中心に行なっている。対話型のプロンプトを用いて作業をさせることが学生の情報活用能力の育成に資するのではないか、というのが当面の研究テーマである。	
プロフィール	教育学部教授。「保健体育科教育法」「体育科教育法」「児童体育」「体育実技（器械運動・体づくり運動）」「皇学入門」や「武道（剣道）」などの講義を担当。専門は武道思想史、保健体育科教育法。また、教育採用試験対策講座として体育実技の指導も実施。近年は、生成AIを用いた学習指導案の作成などを指導している。	

NO. 33	食と健康	駒田 聡子
内容	食には単に栄養素をとって元気な体を作る役割だけではなく、食を通じて他の人とコミュニケーションをとるなど、将来にわたる「心と体の健康」を維持するという働きがあります。 栄養素や何をどのように食べるかといった食事の話だけではなく、睡眠や休養、運動習慣といった生活習慣と体の心の健康について理解を深め、自分自身の生活の改善点に気づき、より健康で豊かな生活を送る前向きな姿勢を育むことを目指した内容について講義をします。	
プロフィール	専門は、食育、調理学、食と栄養 食物アレルギー児支援などひろく食に関わる内容について研究をしています。 また社会活動として、地域で様々な親子クッキングや子どもクッキングなど実践的活動を行っています。 多くの人に、日々の「食」の在り方やその内容の大切さに気がついてもらえることを願って講義や活動を行っています。	

NO. 34	大切な人とことばで繋がるすばらしさ	中條 敦仁
内容	「ことば」は、人と人とが繋がるための大切な媒介です。 幼いころから生活の場で知らず知らずのうちに生きる上で最低限必要な共通の記号を得て、そして学習によってどんどんと高度な共通記号を得て、考えや想いを、ますますリアルに伝えられるようになっていきます。空気と同じようにみなさんにとってその存在が当たり前すぎて気にもしていないかもしれませんが、でも、空気が無くなれば命が尽きます、ことばがなければひとりぼっちで、物を考えることすらできなくなってしまいます。絵本をはじめ、様々な作品に触れて、ことばで繋がるすばらしさを体感してみましよう。	
プロフィール	研究分野は、国語教育学・幼児教育(特に絵本と言語獲得)・国語の授業を活かしたキャリア教育です。 学生とともに、小学校で国語の出前講座をおこなったり、公共の図書館や保育所・幼稚園で絵本の読み聞かせなどをおこなっています。	

NO. 35	保育園、幼稚園、小学校における昆虫を使った「生き物教室」アワヨトウの血球を使った自然免疫の観察	中松 豊
内容	保育園、幼稚園、小学校を対象に、本学で飼育している昆虫を使って、昆虫の体の構造や生活史、生理、生態などの観察・実験を行う。 高等学校教員、高校生を対象に、アワヨトウ幼虫の血球を使った、食作用、ノジュール形成、包囲化作用などの自然免疫の観察・実験を行う。	
プロフィール	「理科教育学」「生物学」「昆虫生理学」が専門。アワヨトウに寄生する寄生蜂を使って「なぜ寄生蜂の卵や幼虫は寄主の免疫を回避することができるのか」をテーマに研究を行っている。また、高等学校「生物基礎」の免疫に関する教員対象の講演や高校生への授業実践、保育園や小学校を中心に昆虫を用いた出前授業を行っている。	

NO. 36	児童虐待とマルトリートメント	吉田 直樹
内容	発達心理学の観点から、家庭における児童虐待、あるいは「不適切な養育」と訳される Child Maltreatment について考え、そういった子育てに陥らないよう、子どもの視点に立った理解や発達に沿ったしつけのあり方など、幼児教育者として子育て家庭を支援する方法について話します。	
プロフィール	「こどもの心理学」「幼児理解」「子育て支援」「教育相談」など、主に幼児期から児童期の発達心理学と臨床心理学の授業を担当。また、臨床心理士・公認心理師として、スクールカウンセラーや児童相談所の講習会講師などの活動も行っています。	

NO. 37	コミュニケーション力をつけよう	渡邊 賢二
内容	コミュニケーションの力を身につけることは大切です。言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションとはどのようなものか。他者に良い印象をもってもらうには、どのようにコミュニケーションをとったらよいのか考えます。また、グループワークを用いて、実際に練習をします。	
プロフィール	「教育・学校心理学」「教育相談」「教職実践演習」など、教育現場で心理学がどのように用いられているか、用いる必要があるのかを授業で展開します。現在、三重県教育委員会、伊勢市、志摩市、鈴鹿市などの教育委員会の依頼を受けて、教員研修や小学生、中学生の保護者を対象に子どもとの関わり方の講演、また心理教育の講演や研修などを行っています。	

NO. 38	アメリカの道徳教育と生徒指導	渡邊 毅
内容	現在アメリカでは、Character Educationと呼ばれる道徳教育とPBISという子供のポジティブな行動を促す生徒指導が行われ、学力向上と問題行動減少に成果をあげていることが報告されています。それについて、わが国の今後の道徳教育や生徒指導にどのように参考になるかを紹介します。	
プロフィール	大学で担当している授業は、「道徳の理論及び指導法」「演習」などです。郷土の偉人の伝記教材を活用した道徳教育とともに、海外の道徳教育にも目を向けて研究を行っています。	

NO. 39	部活動の現在	市田 敏之
内容	近年、部活動の在り方が問われています。そこで、部活動の現状とこれまでの位置づけを踏まえて、部活動に関する改革の論点を紹介します。そのうえで、部活動が持つ教育的意義や課題を指摘し、今後の展望について考察します。	
プロフィール	大学では、「教育行政学」「教育法規」「教育社会学」等の授業を担当しています。研究活動としては、アメリカの科学技術人材育成政策と我が国における市町村教育財政に関心を持っています。 教育に関する諸現象について、広い視点から捉えることを心がけています。	

NO. 40	①教育という営みを考える ②教育学部で学ぶこと	井上 兼一
内容	①教育という営みを考える 教育は私たち人間の日常的な営みであるため、目新しいものではありません。「教育」というと学校をすぐに思い浮かべますが、わが国においては学校制度がスタートして約150年の歴史しかありません。江戸時代の子育てや学びには、現代の私たちが学ぶことがたくさんあります。過去に学び、現代を見つめてみましょう。 ②教育学部で学ぶこと 教育学部で学ぶ意義は何でしょうか？教員養成だけに目が行きがちですが、必ずしもそれだけが目的ではありません。教育を学問の対象として研究・探求する場が大学という高等教育機関です。教育学の扉を少し開けて覗いてみませんか？	
プロフィール	昭和戦前期の学校制度改革（初等教育）について研究しています。明治期から続いてきた制度がどのような課題に直面しており、それを打開するための構想は何であったのか、史料にもとづいて明らかにしようと試みています。また戦後教育との連続性・非連続性について検討しています。本学では「教育史」「教育課程論」などの授業を担当しています。	

NO. 41	①教師の魅力ややりがい ②数学の面白さ・奥深さ ③高校数学で分かる大学数学入門	上野 祐一
内容	①教師の魅力ややりがいについて、担任として、教科担当として、そして部活動顧問（特に 監督）として具体例や体験をもとにお話します。 ②数学の面白さや奥深さについて、数学が苦手な方にも興味を持ってもらえるようにお話します。 ③「大学数学は難しい」誰もが、大学へ入り専門の数学を学ぶときに感じることです。高校まで数学が得意だった人も大学数学特有の抽象さに戸惑います。そんな大学数学を高校数学 の知識を用いて考えてみましょう。そうすることで、今まで学んだ数学とこれから学ぶ数学 の繋がりが分かり、数学の奥深さを感じることができるでしょう。	
プロフィール	昭和58年三重県伊勢市生まれ。 神戸大学大学院理学研究科数学専攻博士前期課程修了 修士（理学） 三重県立白子高等学校、三重県立松阪高等学校等12年間、県内の高校で勤めておりました。 担当教科は数学、部活動は硬式野球部を指導していました。 令和3年より皇學館大学教育学部教育学科助教 令和6年より皇學館大学教育学部教育学科准教授	

NO. 42	①子どもの健康と安全を学ぼう ②命の大切さを知る性（生）教育	小川 真由子
内容	①自分の健康について考え、自分や他人の命を守るために必要な知識と技術を学びます。（けがの応急処置の方法、心肺蘇生法など）また、災害や危険から身を守るための安全に関する日ごろからの備えや対策方法などについて考えます。 ②「国際セクシュアリティガイダンス」に基づく命の大切さを基準にした包括的性教育を実施します。文部科学省が推進する「生命（いのち）の安全教育」の内容にも準ずる、子どもたちのニーズに合わせた性（生）に関する教育を提供します。	
プロフィール	研究の専門分野は、小児保健、学校救急看護、性教育です。大学では「子どもの保健」「子どもの健康と安全」「健康（指導法）」等の授業科目を担当しています。 子どもたちが自分の健康について学ぶことで、これからの生活を自分で守る力を身につけるとともに、自分と他人の命を守る知識と技術を修得するお手伝いできればと思います。 性教育に関しても、自分を大切にすることを基本として、生きるために必要な知識・技術・考え方を身につけ、これからの人生に役立つ内容の授業を行っています。	

NO. 43	①非感染性疾患（生活習慣病）の予防と改善－食事・運動と健康 ②身体活動、運動、スポーツの違いを説明できますか？	片山 靖富
内容	1. 非感染性疾患（生活習慣病：肥満、高血圧、脂質異常、高血糖、循環器系疾患など）とは何か、何が病気を引き起こすのか、予防や改善に何が大切なのか、主に身体活動（運動）と食事を中心に解説します。また、予防や改善のための望ましい健康行動を促す方法（行動変容）についても解説できます。 2. 「身体活動」「運動」「スポーツ」の違いと、それぞれが持つ医学生理学的効果だけでなく、教育学的、社会学的、文化的意義について解説することで、スポーツライフ構築（運動習慣の定着に）役立つ知識やスキルを身につけてもらえればと思います。	
プロフィール	大学では保健体育の保健分野にあたる「生理学」や「衛生学・公衆衛生学」「学校保健」の授業を担当しています。主な研究内容は、生活習慣病を有する成人を対象に、食生活・食事改善や運動実践による健康づくり教室・減量教室を提供し、運動や食事の医学的効果の検証、身体活動や運動・スポーツをする（みる、ささえる）ことのエデュケーション的意義、社会学的・文化的意義の検証、最近では、心理学（認知バイアス）や経済行動学におけるNUDGEを活用した、運動・スポーツを始めてもらう方策・始めた運動・スポーツを継続してもらう方策といった行動変容についても研究しています。	

NO. 44	一流柔道選手および学生柔道選手を対象とした研究の紹介（主に競技力向上に対するアプローチ）	佐藤 武尊
内容	学生柔道重量級選手における等速性体幹筋力と競技力の関係について／一流柔道選手における脚伸展パワーと競技力の関係／アネロプレス3500を用いた柔道選手の脚伸展パワー評価－一流柔道選手と学生柔道選手の比較からの検討－／柔道の重量級選手における体幹筋力と競技力の関係について／一流柔道選手における体幹筋力と競技力の相関／一流柔道選手における脚伸展パワーと競技力の関係／女子柔道選手の等速性体幹筋力－角速度変化に伴う筋力発揮特性－／重量級男子柔道選手の体幹筋力－競技力別グループ間の比較－／柔道男子軽量級選手の体幹筋力－競技力別グループ間の比較－／体重管理における小学生柔道選手とその保護者の意識及び実態調査／柔道選手の競技力順位付けの客観性と信頼性－男子重量級選手を評価対象とする場合－／柔道選手の競技力順位付けの客観性と信頼性－女性指導者が女子選手を評価する場合－／小学生が施す「体落」の釣手動作におけるバイオメカニクス的研究／一流柔道選手における脚伸展パワーと競技力の関係	
プロフィール	「武道Ⅰ・Ⅱ（柔道）」や「運動学（運動方法学）」などの授業を担当しています。また、公益財団法人全日本柔道連盟公認柔道指導者資格A指導員や全日本柔道連盟公認審判員Aライセンスなどの資格を有し、小学生・中学生・高校生・大学生・社会人を対象とした柔道の普及発展活動と公益財団法人全日本柔道連盟強化委員会科学研究部競技分析主任としての学外活動も行っています。	

NO. 45	理科の観察・実験	澤 友美
内容	小学校の理科の生物分野を中心に専門的な視点からより深く学びます。例えば、モンシロチョウに寄生する小さな寄生蜂や植物ではなく昆虫を捕食するカメムシなど、あまり目に触れられない生き物の存在を知り、解剖実験や観察を通して昆虫の巧みな生存戦略について考えます。また、昆虫にはヒトと共通する点があります。免疫の視点からヒトと共通する免疫反応について昆虫を用いて観察・実験を行い、実感を伴った理解に繋がりたいと考えています。	
プロフィール	小学校・中学校教諭を経て現職。「理科教育学」が専門。担当科目は「理科教育法」、「児童理科」、「理科実験指導法」など。小学校の生活科、理科、高等学校の生物基礎を中心に、保育所・幼稚園、中学校においても出前講座を行っています。	

NO. 46	子供と楽しむ音楽あそび	高橋 摩衣子
内容	学校教育・幼児教育・保育現場や育児で活用可能な、歌あそび、手あそび、音楽あそびを、実際に体を動かしながら学びます。また、ピアノの演奏経験がなくても簡単に取組める子どもの歌のピアノ伴奏の方法を、実践しながら学びます。	
プロフィール	国立総合児童センターこどもの城(東京)にて、5年間童謡ステージの弾き歌いやキーボード演奏を担当。その後、キングレコードにて、制作ディレクターとして幼児教育教材を中心に約400タイトルのCDを制作。現、皇學館大学教育学部教育学科准教授。教員や保育者をめざす学生を対象に、音楽の理論や教育法、ピアノ実技などの授業を行っています。	

NO. 47	教育・学校の歴史 成人の学習	野々垣 明子
内容	教育や学校の歴史を学びながら、いまの教育について理解し、考えていきたいと思ひます。日本や諸外国には、子どもや大人によってつくられ、受け継がれてきた教育や学びの文化があります。人びとの暮らしに根ざした子育てや学びの営みがあります。国や地域が違っていても、子どもや若者の成長を願い、次世代に知識や技術を伝えていこうとする想いは共通しています。 教育や学校の歴史と出会うことで、私たちにとっての教育や学びの意味、大切さに思いを馳せていきたいと思ひます。	
プロフィール	静岡県生まれ。家族が書道塾を営んでいたため、子どもの頃から、「学ぶ」ということに興味を持っていました。山梨大学教育学部、修士課程教育学研究科、筑波大学博士課程教育学研究科、筑波大学勤務を経て、平成19年より皇學館大学教育学部に勤務しております。大学では「教育哲学」「教育学概論」「教職論」等の授業を担当しています。研究対象は、アメリカの成人教育の歴史です。人びとが学びの機会を自分たちでつくり出してきたプロセスを、史料をもとに解き明かそうと試みてきました。最近では、三重県の戦後の社会教育の歩み、三重県におけるリカレント教育の推進にも関心を持っています。	

NO. 48	脱炭素社会・カーボンニュートラルへの取り組み	萩原 浩司
内容	温暖化に伴うと考えられる気象災害の増加や、その対策として進められている脱炭素社会に向けた取り組みなど、エネルギー環境問題は近年ますます注目されています。最近ではメディアでも「SDGs」や「カーボンニュートラル」といった言葉を目にする機会が増えてきました。脱炭素への取り組みは、従来の「環境保護」や「省エネ」とは質的に異なります。今まではエネルギー環境問題を自然科学的な視点から考えることが主でしたが、これからは社会的な視点が必要となります。脱炭素へ向けた社会的合意をいかに形成していくのか考えることで、エネルギー環境問題を解決するヒントを探りたいと考えています。	
プロフィール	社会科教育学が専門。また、エネルギー教育や歴史教育に関しても研究をしています。大学では、社会科・生活科・総合的な学習の時間などに関わる講義や演習を担当しています。	

NO. 49	大学～教育学部での学び	山本 智子
内容	教育学部では、教師になることを目指して学びを深めていきます。 本講義では、教師になるということはどういうことであるのか。教師の使命感や魅力についてお話しします。	
プロフィール	特別支援学校教員のあと、幼保・小中高・大学の心理教育相談・発達支援などを行う心理職を経て現職。大学における教育・研究活動のほか、幼児児童生徒に対する発達の支援、様々な事情を抱え苦戦状況にある方々の支援等について研鑽しています。だれもが地域でハッピーに生きることができることを願っています。	

NO. 50	①明日はわが身の社会福祉 ―社会福祉って何だろう?― ②ときめき!! 保育士体験 ―新聞紙を使った保育の展開	吉田 明弘
内容	①保育士や教師になるためには、社会福祉について理解しておくことが求められます。そこで社会福祉の理念を、音楽などを用いながら、わかりやすく説明します。 ②子どもの頃に返って、新聞紙を使った保育を実際に体験してください。夢中になって遊ぶ中で、保育の本質が見えてくることでしょう。	
プロフィール	担当科目は、「児童家庭福祉」「家族援助論」「社会的養護」「保育実習」など。児童福祉施設や少年院退所（院）者などの就労先を見出す活動（現代のロバート・オウエン賞）や、子どもの貧困対策を考える学習会活動などを行っています。	

NO. 51	わが国の社会問題と社会福祉	鵜沼 憲晴
内容	格差社会、子どもの貧困、孤立死、虐待など、わが国で深刻化している社会問題を明らかにしていきます。そして、それら社会問題への具体的対応例を提示しながら、社会福祉専門職（社会福祉士）の紹介をしていきます。	
プロフィール	昭和41年生まれ。 龍谷大学社会学研究科社会福祉学専攻 博士後期課程満期退学（博士）社会福祉学 専門分野：社会福祉学 社会福祉法制度論	

NO. 52	未来の大人たちに私たちができること（一般） 君たちの可能性は無限大（中学生～大学生）	岸川 政之
内容	実際に私自身が取り組んできた多くの地域活性化事例に基づき、地域の在り方を学びます。また、生徒や学生には、社会での役割を踏まえた自分たちの可能性について、全国の高校生の取り組み事例などを紹介しながら話をします。	
プロフィール	昭和32年三重県生まれ。京都産業大学経営学科卒業後、昭和57年多気町入庁。在職中に高校生レストラン「まごの店」やその先輩が運営する惣菜とお弁当の店（株）相可フードネット「せんぱいの店」など、コミュニティビジネスの手法を取り入れた地域おこしに取り組む。 平成27年4月で多気町を退職し、現在は皇學館大学現代日本社会学部教授 講義：公共政策論、地域再生論、社会臨床実習、社会情報実習ほか	

NO. 53	児童虐待の現状と課題	関根 薫
内容	テレビのニュースや新聞を通じて毎日のように児童虐待の問題が取り上げられています。今回の授業では、児童虐待問題の現状を統計的に把握するとともに、児童虐待防止法の内容と問題点を明らかにします。またこの問題が増加している背景について個人的および社会的要因の両面から考察したいと思います。	
プロフィール	昭和47年大阪生まれ。 龍谷大学大学院社会学研究科博士後期課程満期退学 修士（社会学） 専門分野：家族社会学、老年社会学	

NO. 54	映画の中の社会情報	筒井 琢磨
内容	私たちの社会は今、情報に満ちあふれています。私たちは情報をいかに受け止めて、いかに操って社会生活を営んでいるのでしょうか。社会生活を情報の流れから考えてみようというのが、社会情報の考え方です。ドラマや映画を題材にして、社会情報とは何かを解説します。	
プロフィール	昭和37年大阪府生まれ。 京都大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程満期退学（文学修士） 専門分野：社会調査法、地域社会学、社会情報学	

NO. 55	社会福祉について学んでみよう	中野 一茂
内容	知っているようで知らない社会福祉の法律や制度、実は日常生活に生かすことができる法律や制度はたくさんあります。それらの利用方法を分かりやすく解説します。せっかくだから、どんどん利用して自分の生活向上に役立てましょう。	
プロフィール	社会福祉学修士 元介護老人福祉施設職員 介護福祉士	

NO. 56	社会調査のウソ、ホント	藤井 恭子
内容	世の中に社会調査があふれています。そのなかには社会調査ともいえないようなものも混在しています。どのような点に注意すれば社会調査の真意を読み取ることができるか、あるいはどのようにすれば有効な社会調査をすることができるかなど、社会調査の基礎を簡単にお話したいと思います。	
プロフィール	山口県生まれ。 奈良女子大学大学院博士後期課程単位取得退学（学術博士） 専門分野：社会調査法、教育社会学、地域社会学	

NO. 57	異文化のレンズを通して見る日本-ポーランドとの文化対話	瓜田 理子
内容	このプログラムでは、ポーランドのワルシャワ大学から、皇學館大学に神道を学びにきた留学生と共に、日本とポーランドの文化を比較検討します。留学生とのディスカッション（日本語）を通じて、日本文化の特徴を新しい角度から考える機会を得られます。また、異なる文化背景を持つ学生との対話を通じて、自国の文化をより深く理解し、国際的な視野を広げることができるでしょう。この交流は、将来グローバルに活動するための貴重なスキルを身につける絶好の機会です。自国を異文化の視点から見直し、新たな発見を通じて日本の魅力を再発見しませんか？	
プロフィール	北九州市出身 上智大学社会学科卒(学士) インドにて古典音楽(弦楽器シタール)をインドの人間国宝級の音楽家に師事。 米国シアトル市ワシントン大学大学院(University of Washington, Seattle)にて民族音楽学の博士号を取得(PhD) 専門:民族音楽学、異文化理解、日本文化の英語発信	

NO. 58	これであなたも聞き上手！ 社会福祉の相談援助職が用いる傾聴の技術	榎本 悠孝
内容	普段の会話でこんなことはありませんか・・・友達や家族に一生懸命あなたが話をしているのに、相手が適当に聞き流しているみたい・・・反対に、友達や家族に不安や悩み事の話聞いてもらってスッキリしたこと。 聞き方によって相手は安心したり、不安になったり、いろいろな感情を持ちます。この授業では社会福祉の相談援助職が用いる傾聴の技術から聞き上手になる「こつ」を伝えたいと思います。	
プロフィール	大阪市立大学大学院生活科学研究科後期博士課程単位取得満期退学 伊賀圏域障がい福祉連絡協議会地域移行部会委員・社会福祉士	

NO. 59	生成AIで創出するみんなのWell-being	大井 智香子
内容	「ことばで動く 言語AI」の登場で、今や誰でも簡単にAIに指示を出すことができるようになりました。生成AIの基本理解、生成AIがわたしたちの生活やしあわせ（Well-being）にどのように関係しているか、生成AIの活用に関する倫理的な課題などを学びます。みんなのしあわせ創りのための生成AI活用について一緒に考えてみましょうか？	
プロフィール	日本福祉大学大学院福祉社会開発研究科社会福祉学専攻 博士課程単位取得満期退学 福祉マネジメント修士 大学卒業後に、岐阜県社会福祉協議会で実務に従事。その後リカレントで母校の大学院に進学、中部学院大学短期大学部講師、准教授を経て現職。 社会福祉士、準認定ファンドレイザー（専門認定：社会福祉ファンドレイザー、大学ファンドレイザー）	

NO. 60	世界の中の日本 —大国としての覚悟と未来への責任—	村上 政俊
内容	我が国は世界第3位の経済大国として、また先進民主主義国の集まりであるG7の一員として、世界の将来に対して大きな責任を負っています。 一方で世界の中では、中国やロシアで権威主義体制が強化されて、人権や宗教の自由が脅かされており、民主主義や法の支配を擁護する立場にある日本の役割は、ますます重要になっています。 エネルギーや食料を輸入に頼っている日本にとって、世界の動きは決して他人事ではありません。世界の「いま」を知り尽くした講師が、明日の日本を担う高校生に語ります。	
プロフィール	昭和58(1983)年7月7日生。 幼少期を豪州で過ごす。灘高校、東大法学部卒。国家公務員試験I種(法律職)に合格して平成20年に外務省に入省。日中韓首脳会議等に参画し、大使館外交官補として北京大学、ロンドン大学に留学。退官後に衆議院議員を1期。 日本ユネスコ国内委員会委員、台湾大学訪問学者等を経て現職。 現在ほかに中曽根平和研究所客員研究員、日本戦略研究フォーラム上席研究員等を務める。 専門は国際政治。母校(帝塚山学院小、灘校、東大法)での講義経験あり。	

公開授業のご案内

高校生の間に大学の講義を、見学してみませんか？



皇學館大学では、高校生、保護者等を対象とした公開授業制度を設けています。将来の自分探し、進路選択または、入学試験合格後の、入学前準備における利用も可能です。是非お申込みください。

申込方法

- (1) 授業見学希望日の1週間前(必着)までに、FAX、E-mail、または郵送にて申込用紙を記入の上、学生支援部教務担当まで申し込みください。(申込書はダウンロード可能)
- (2) 申し込み受付後、申込用紙に記載されている宛先に、授業見学の詳細を連絡します。

※申込多数の場合や授業のプログラム、進行状況によっては、聴講いただけない場合もあります。

※原則、1回の授業につき見学受入れ人数の上限は15名とし、同じ授業の見学は2回までとします。

公開している授業、申込用紙等についてはこちらをご確認ください。



【問い合わせ先】

学生支援部教務担当

TEL : 0596-22-6315 (直通)

FAX : 0596-27-1704

メール : kyomu@kogakkan-u.ac.jp

MEMO

皇學館大学講師派遣プログラム

出前授業実施申込書

次の通り、皇學館大学教員の派遣を依頼します。

貴 校 名	
ご担当部署・ご担当者	
ご 連 絡 先	電話番号
	FAX番号
	E-mail

ご依頼内容について

希 望 日	《第1希望》 令和 年 月 日 (曜日)
	《第2希望》 令和 年 月 日 (曜日)
希 望 講 師 名	《第1希望》 講師名: _____ 学科 _____
	《第2希望》 講師名: _____ 学科 _____
講 義 テ ー マ の 希 望	《第1希望》 《第2希望》
対 象 学 年 ・ 対 象 人 数	【対象学年】 年《文系・理系・類型なし》 【対象人数】 名
当 日 の 日 程	集合時間: _____ : _____ 講義実施時間: _____ : _____ ~ _____ : _____
そ の 他 (ご 要 望 等)	

※講義実施予定日の1ヵ月前までに、E-mailまたはFAXにてお申込ください。

本学連絡先 皇學館大学 学生支援部 入試担当
〒516-8555
三重県伊勢市神田久志本町1704

電話番号 0596-22-6316
FAX番号 0596-22-6378
E-mail nyusi@kogakkan-u.ac.jp

皇學館大学講師派遣プログラム
入試説明会・学部学科説明実施申込書

次の通り、皇學館大学教職員の派遣を依頼します。

貴校名	
ご担当部署・ご担当者	
ご連絡先	電話番号
	FAX番号
	E-mail

ご依頼内容について

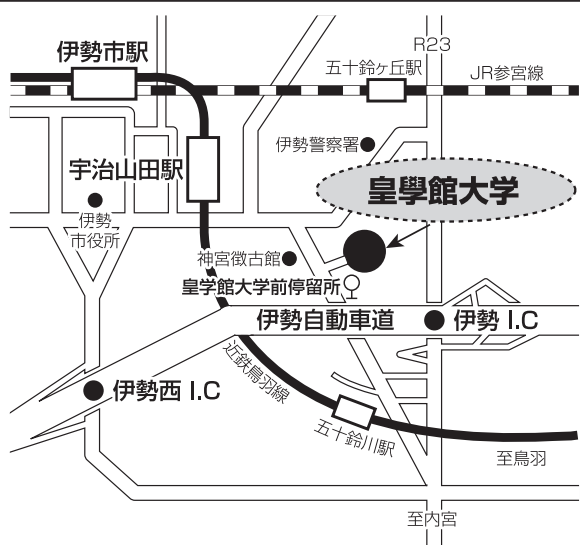
[illegible]

※講義実施予定日の1ヵ月前までに、E-mailまたはFAXにてお申込ください。

本学連絡先 皇學館大学 学生支援部 入試担当
〒516-8555
三重県伊勢市神田久志本町1704

電話番号 0596-22-6316
FAX番号 0596-22-6378
E-mail nyusi@kogakkan-u.ac.jp

皇學館大学 案内図



【交通】 近鉄宇治山田駅又は近鉄・J R 伊勢市駅下車
「内宮」行きバス（徴古館前経由約10分）にて
「皇学館大学前」下車
伊勢自動車道を利用する場合は「伊勢I.C.」から5分

交通機関

伊勢までの所要時間（近鉄利用）

大阪難波：1時間45分

京 都：2時間00分

名 古 屋：1時間20分

近鉄等

J R



皇學館大学

学生支援部 入試担当

■〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704 ■TEL. 0596 (22) 6316 (直) ■FAX. 0596 (22) 6378 (直)

■インターネットホームページ <http://www.kogakkan-u.ac.jp> ■E-mail nyusi@kogakkan-u.ac.jp